

# IRNAVI

アイアール  
ナビ  
vol.29

株主の皆様へ／代表執行役社長 越智 仁

● 第12期決算のご報告

もっと知りたい！ 三菱ケミカルホールディングス

中期経営計画「APTSIS 20」の進捗について  
三菱ケミカルの発足



KAITEKIな仲間たち Vol.05

証券コード 4188

株主の皆様へ

 株式会社三菱ケミカルホールディングス

第12期 期末のご報告

2016年4月1日 ▶ 2017年3月31日

## 株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当期における当社グループの事業環境は、機能商品分野及び素材分野においては、前期に比べ円高の影響を受けたものの、国内外の需要が堅調に推移し、ヘルスケア分野においては、2016年4月に実施された薬価改定の影響等がありましたが、販売は堅調に推移しました。このような中で、当社グループは、「機能商品、素材、ヘルスケア分野の事業を通じて、高成長・高収益型の企業グループをめざす」を基本方針とする、中期経営計画「APTSIS\* 20」(2016年度～2020年度)のもと、ROE 10%以上を維持できる企業体質を早期につくりあげ、2020年度において、コア営業利益3,800億円の達成をめざしております。2016年度には、日本合成化学工業(株)の完全子会社化、米国における産業ガス事業・資産の買収等の成長に向けた投資を進める一方、水島エチレンセンターの統合、インド及び中国におけるテレフタル酸事業の売却等、石化事業の構造改革を行いました。2017年度も引き続き、事業ポートフォリオ改革をはじめ、さらなる成長に向けた施策を着実に実行してまいります。

当期の連結業績につきましては、次頁以下に詳細を記載しております。また、当期の期末配当金は、親会社の所有者に帰属する当期利益が大幅に改善したことから、配当の基本方針及び今後の事業展開等を総合的に勘案して、前期に比べて4円増配し、1株につき12円とさせていただきます。

また当社グループでは、安全管理の徹底はもとより、コンプライアンス推進等の内部統制の強化に加え、従業員の健康を重要

な経営資源と位置づけ戦略的に投資を行う「健康経営」を推進し、従業員の健康増進と職場の生産性向上に取り組んでまいります。

当社グループは、真にグローバルな「THE KAITEKI COMPANY」をめざし、企業価値・株主価値の向上に努めてまいりますので、何卒倍旧のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2017年6月



代表執行役社長  
越智 仁

## CONTENTS

■ 株主の皆様へ	1	■ KAITEKIな仲間たち Vol.05	9
■ 連結業績の概要	2	■ 財務諸表の概要	11
■ セグメント別業績	3	■ 株式の状況	13
■ 各事業会社の活動・トピックス	5	■ 会社概要	14
■ もっと知りたい！ 三菱ケミカルホールディングス	7		

\*「APTSIS」とは、Agility (俊敏に、とにかく速く)、Principle (原理原則・理念の共有)、Transparency (透明性・説明責任・コンプライアンス)、Sense of Survival (崖っぷちにあるという意識・危機感)、Internationalization (グローバル市場でのパフォーマンス向上)、Safety, Security & Sustainability (製造における安全、品質における安心、情報セキュリティ及び環境対応)のそれぞれの頭文字をとった造語で、当社グループの行動指針です。

## 連結業績の概要

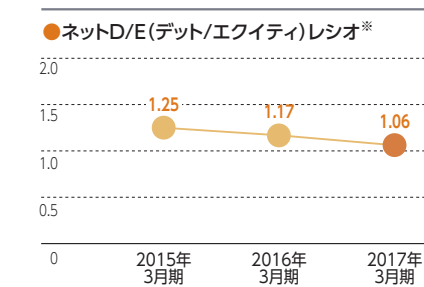
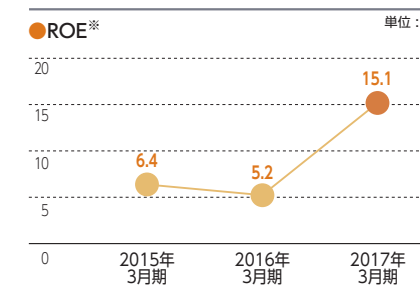
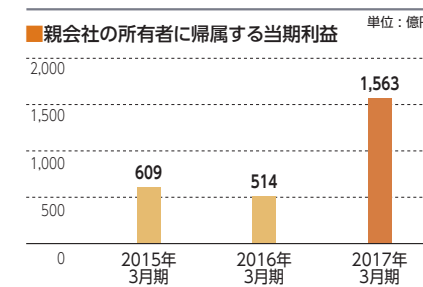
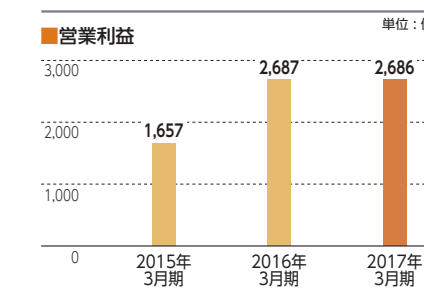
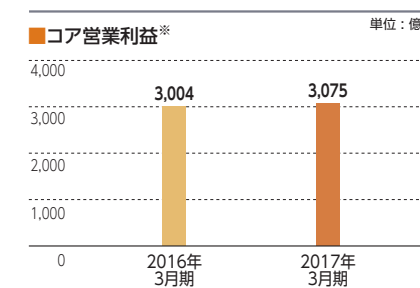
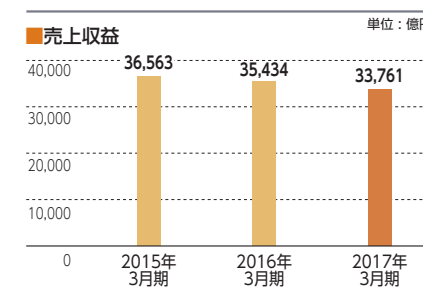
### 景気の緩やかな回復基調が続く中、3,075億円のコア営業利益を計上しました。

#### 円高等の影響を受けながらも、需要は堅調に推移

当期は、円高や2016年4月に実施された薬価改定の影響等があったものの、国内外の需要が堅調に推移しました。当期の連結業績は、売上収益は3兆3,761億円(前期比1,673億円減)となり、利益面では、コア営業利益は3,075億円(同71億円増)、営業利益は2,686億円(同1億円減)となり、親会社の所有者に帰属する当期利益は、インド及び中国におけるテレフタル酸事業の減損損失の減少もあり、1,563億円(同1,049億円増)となりました。

#### ROEが9.9ポイント、ネットD/Eレシオが0.11ポイント改善

資産合計は、新株予約権付社債の発行による手元現金の一時的な増加等により、4兆4,635億円(前期末比2,397億円増)となり、負債合計は、有利子負債の増加等により、2兆7,654億円(同1,377億円増)となりました。また、資本合計は、親会社の所有者に帰属する当期利益1,563億円の計上により利益剰余金が増加したこと等により、1兆6,982億円(同1,020億円増)となりました。この結果、ROEは15.1%となり、ネットD/Eレシオは1.06となりました。

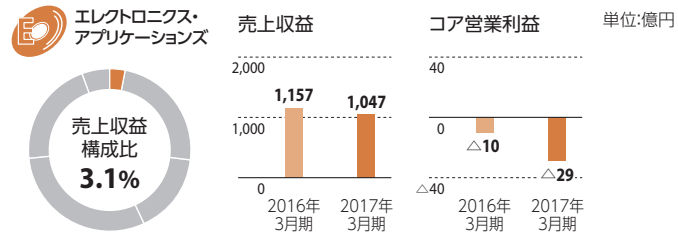


※当期(2017年3月期)より国際会計基準(IFRS)を適用しており、2016年3月期の数値はIFRSに組替えております。  
 ※グラフはIFRSに準拠した用語で表示しております。2015年3月期の数値は日本基準に基づくものであり、「売上収益」は「売上高」、「親会社の所有者に帰属する当期利益」は「親会社株主に帰属する当期純利益」となります。  
 ※コア営業利益とは、営業利益から非経常的な要因により発生した損益(非経常項目)を除いた経常的な収益のことです。  
 ※ROE=親会社の所有者に帰属する当期利益÷親会社所有者帰属持分(期首期末平均)  
 ※ネットD/Eレシオ={有利子負債(割引手形を含む)}-(現金・現金同等物+手元運用資金残高)÷親会社所有者帰属持分  
 ※インド及び中国におけるテレフタル酸事業の譲渡決定(2016年7月27日公表)に伴い、両地域における同事業を非継続事業に分類しております。これに伴い、2017年3月期末及び比較情報としての2016年3月期実績は、非継続事業を除いた継続事業の数値を記載しています。

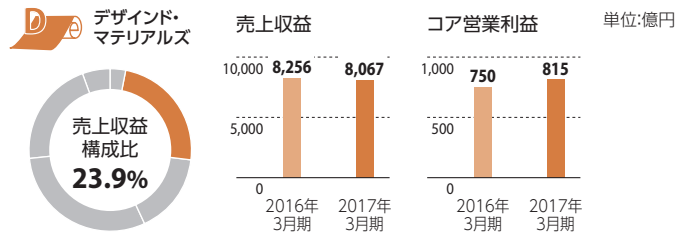
# セグメント別業績

( )内の数字は前期比

## 機能商品



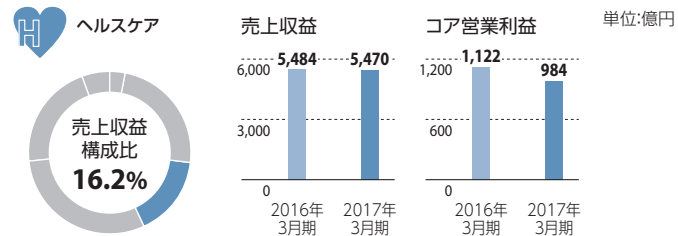
**エレクトロニクス・アプリケーションズセグメント**  
 《売上収益》1,047億円(110億円減)  
 情報機材… OPC及びトナーの販売数量の減少  
 電子関連製品… ディスプレイ材料等の販売価格の低下  
**《コア営業利益》△29億円(19億円の損失増)**  
 円高の影響による減益



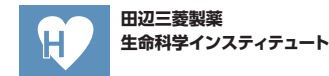
**デザイン・マテリアルズセグメント**  
 《売上収益》8,067億円(189億円減)  
 樹脂加工品… 円高の影響等による減少  
 精密化学品… コーティング材料等の需要が概ね堅調に推移  
 電池材料… 自動車用電池向けの販売数量が増加  
 複合材… 円高の影響による減少  
**《コア営業利益》815億円(65億円増)**  
 販売数量の増加等による増益



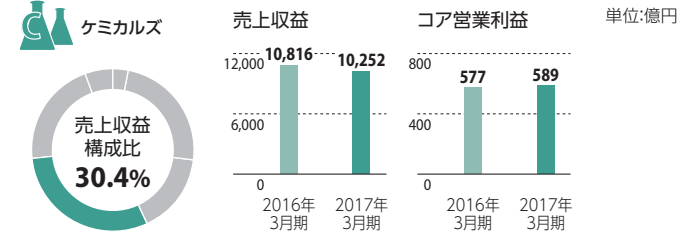
## ヘルスケア



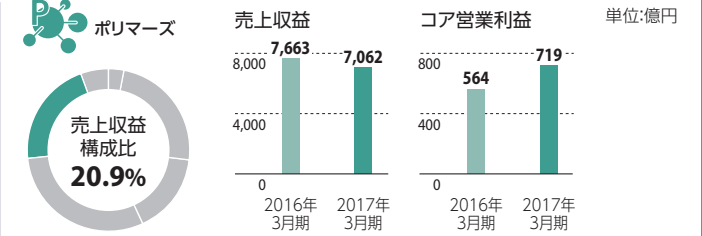
**ヘルスケアセグメント**  
 《売上収益》5,470億円(14億円減)  
 医薬品… 薬価改定の影響等による減少  
 診断検査及び製剤材料… 販売が堅調に推移  
**《コア営業利益》984億円(138億円減)**  
 米国における販売準備の費用増加等による減益



## 素材



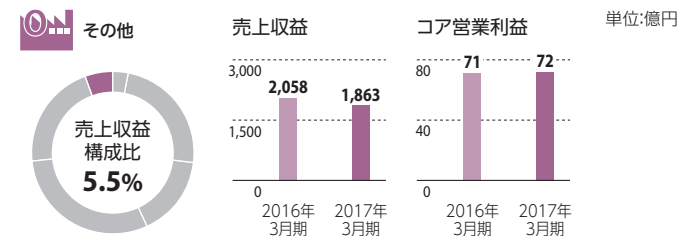
**ケミカルズセグメント**  
 《売上収益》1兆252億円(564億円減)  
 基礎石化製品及び化成製品  
 … 原料価格の下落に伴う販売価格の低下等による減少  
 炭素製品… 原料炭価格の急騰に伴う販売価格の上昇による増加  
 産業ガス… 円高の影響による減少  
**《コア営業利益》589億円(12億円増)**  
 原燃料価格の下落等による増益



**ポリマーズセグメント**  
 《売上収益》7,062億円(601億円減)  
 合成樹脂… 原料価格の下落に伴う販売価格の低下による減少  
**《コア営業利益》719億円(155億円増)**  
 MMAモノマーの市況が堅調に推移したことによる増益



## その他



**その他**  
 《売上収益》1,863億円(195億円減)  
 エンジニアリング事業… 外部受注が減少  
**《コア営業利益》72億円(1億円増)**  
 コスト削減等による増益





## 三菱ケミカル（2017年4月に化学系3社の統合により発足）

### 三菱化学

#### 機能商品

- 子会社の日本合成化学工業(株)及び日本化成(株)を完全子会社化（昨年11月及び本年1月）
- フィンランドの五ツ星レストラン「Ravintola Savoy」との間で、完全人工光型植物工場システム「Plant Plant」の実証実験及び共同マーケティングを開始（昨年11月）
- ゼオライト膜を活用し旨味・香り・アルコール成分を濃縮したアルコール度数30度の新しい日本酒「concentration 作 凝縮 H」について、清水清三郎商店(株)が販売を開始（本年3月）

#### 素材

- 植物由来プラスチック「DURABIO」について、昨年8月にルノー社（フランス）の新型「Clio」（日本名「ルーテシア」）のメーターカバーに欧州車の部品として初めて採用されたのに続き、マツダ(株)と共同開発したグレードが「ロードスター RF」の外装意匠部品として採用（昨年12月）



ロードスター RF

### 三菱樹脂

#### 機能商品

- 子会社のクオドラント社（スイス）が、パイパー・プラ

スティックス社（米国）の全株式を取得し、完全子会社化（昨年5月）

- 子会社の(株)アストロが、天然芝と人工芝を融合させたハイブリッド芝「エクストラグラス」を発売し、浦和レッズ運営の総合型スポーツクラブ「レッズランド」において、国内で初めてグラウンド全面に採用（昨年10月）

### 三菱レイヨン

#### 機能商品

- 大竹事業所において、ラージトウ炭素繊維の生産能力の増強を決定（昨年6月）
- ランボルギーニ社（イタリア）との間で、自動車用炭素繊維複合材分野における共同開発を検討する旨の基本合意書を締結（昨年9月）
- 三菱レイヨン・クリンスイ(株)が、「和食のためのクリンスイ」のお米用・お茶用に続く第三弾として、おいしい出汁を作るためのポット型浄水器「クリンスイ JP407-D」の販売を開始（昨年10月）
- 炭素繊維複合材料「Sheet Molding Compound」が、トヨタ自動車(株)の発売する新型「プリウス PHV」のバックドアの骨格部材として採用（本年2月）



クリンスイ JP407-D



プリウス PHV バックドア骨格部材

## 田辺三菱製薬

### ヘルスケア

- 女性活躍推進法に基づく「えるぼし」認定で、厚生労働大臣から最高ランクの認定を取得（昨年5月）
- コーロン・ライフ・サイエンス社（韓国）との間で、変形性膝関節症の症状改善を目的とした細胞治療薬「インボサー」のライセンス契約を締結し、日本における独占的開発・販売権を取得（昨年11月）
- ニプロ(株)との間で、ジェネリック医薬品事業及び長期収載品の一部を譲渡する旨を合意（本年3月）
- 昨年6月に米国食品医薬品局（FDA）に申請した「ラジカヴァ」(日本製品名「ラジカット」)について、FDAより筋萎縮性側索硬化症（ALS）を適応症とする製造販売承認を取得（本年5月）
- （一財）阪大微生物病研究会（BIKEN財団）との間で、同財団のワクチン製造技術を基盤としたワクチン製造の合弁会社として(株)BIKENの設立に最終合意（本年5月）



えるぼし



ラジカヴァ

## 生命科学インスティテュート

### ヘルスケア

- Muse細胞を用いた再生医療の早期事業化に向けた体制強化を図るため、子会社の(株)Clioを吸収合併（本年1月）

## 大陽日酸

### 素材

- 子会社のタイヨウ・ニッポン・サンソ・ホールディングス・シンガポール社を通じて、ミャンマーにおける工業ガスの製造・販売事業の展開を目的とし、ティアワ工業団地内に新社の設立を決定（昨年8月）
- 子会社のマチソン・トライガス社（米国）を通じて、エア・リキード社（フランス）の米国での産業ガス事業の一部及び関連する事業資産を買収（昨年9月）
- マチソン・トライガス社（米国）を通じて、ロッテ・ケミカル・ルイジアナ社（米国）との間で、同社のプラントに産業ガスをパイピング供給する契約を締結（昨年11月）
- 子会社のティーエヌエスシー（オーストラリア）社を通じて、産業ガス・LPG会社であるスパガス・ホールディングス社（オーストラリア）を買収（昨年12月）
- 子会社のサーモス(株)が、日本初となる直営店「サーモススタイリングストア」を東京都世田谷区にオープン（本年3月）



サーモス スタイリングストア

## 中期経営計画「APTSIS 20」の進捗について

2015年12月の中期経営計画「APTSIS 20」の発表から1年半が経過しました。  
2016年度の進捗について、ご報告いたします。

### 分野別の取り組み

2016年度は、「APTSIS 20」の基本計画に沿って、各分野での海外事業の収益性強化、機能商品分野におけるグループ内の協奏・インテグレーションの促進や、ヘルスケア分野における持続的成長と収益力強化など、各分野で着実に施策を実施しました。

### 事業ポートフォリオ改革

2016年度は、日本合成化学工業、日本化成の完全子会社化や、米国産業ガス事業の一部買収を実施しました。また、水島エチレンセンターの統合、インド・中国におけるテレフタル酸事業の売却など、石化事業の再編を進めました。

#### 機能商品

- グループ協奏、インテグレーション促進**
  - 日本合成化学工業を完全子会社化
  - 日本化成を完全子会社化
- 海外事業の収益性強化**
  - 米国でのポリエステルフィルム製造設備の増設
  - 米国での炭素繊維製造設備の増設
  - パイパー・プラスチック社(米国)の買収
- 新エネルギー事業の早期収益化**

#### 素材

- 不採算事業と低収益事業の抜本対策**
  - テレフタル酸事業(インド・中国)の売却
- 海外事業の収益性強化**
  - エア・リキード社(フランス)より米国の事業・資産の一部を買収
  - スパガス・ホールディングス社(オーストラリア)の買収
- 生産性の高い企業体質の実現**
  - 水島エチレンセンターの統合

#### ヘルスケア

- 持続的成長と収益力強化**
  - ワクチン製造合弁会社の設立に最終合意
- 海外事業の収益性強化**
  - 米国食品医薬品局からラジカヴァのALSを適応症とする承認を取得
- 生産性の高い企業体質の実現**
  - エーピーアイコーポレーション袋井工場の売却
  - ジェネリック医薬品事業及び長期取組品の一部譲渡を合意

### スポンサー契約をしている前川選手が リオデジャネイロ・パラリンピックの女子走り幅跳びで4位入賞

当社グループは、2016年4月から、義足の陸上競技選手である前川 楓(まえがわ かえで)さんのスポンサーとして、大会出場やトレーニングに際しサポートを行っております。前川選手は、当社グループが提供するスポーツ用義足の試作品を使用し、その結果のフィードバックや製品開発のアドバイス等を行っています。このたび前川選手は、2016年9月に開催されたリオデジャネイロ・パラリンピックの女子走り幅跳びで、アジア記録を更新する好記録で4位入賞しました。



## 三菱ケミカルの発足

2017年4月1日に、化学系事業会社である三菱化学、三菱樹脂、三菱レイヨンの3社が統合し、三菱ケミカルが発足しました。3社統合により、市場アクセス等の観点から、10事業部門を構成し戦略的的事业ユニットも集約することで、マーケット情報と技術力を最大限に活かす事業体制で成長を加速します。



### 健康経営優良法人 2017～ホワイト500～に認定

当社は、日本健康会議の認定制度である第1回「健康経営優良法人 2017」(大規模法人部門)に認定されました。これは、地域の健康課題や、日本健康会議が進める健康増進への取り組みをもとに、特に優良な健康経営を実践している法人を認定する制度で、2020年までに500社が「健康経営優良法人～ホワイト500～」として認定・公表されます。田辺三菱製薬もその経営理念などが高い評価を受け、当社と並んで認定されています。







会社名 大陽日酸株式会社  
本社所在地 東京都品川区小山1-3-26 東洋Bldg.  
発足 1910年  
取締役社長 市原 裕史郎

## 地球の恵みをガスに代えて、 あらゆる産業と暮らしを支えています。

大陽日酸が製造・供給する産業ガスは、空気という無限の資源を原料にし、鉄鋼や化学などの基幹産業からエレクトロニクスや医療などの先端産業まであらゆる産業に必要な不可欠な存在として暮らしを支えています。

### 産業ガス



国内外で鉄鋼・化学・自動車・建設・造船・食品など、幅広い産業分野に、酸素・窒素・アルゴンをはじめとする産業ガスを安定供給。応用機器の開発・製造に加えて、科学や環境保全の最前線で活躍しています。

### LPガス



事業用から家庭用まで、幅広く使用されるクリーンエネルギーであるLPガス。タクシーなどの商業車用燃料、空調機器、エアゾール噴射材料など、多種多様な分野にLPガスを供給しています。

### プラントエンジニアリング



エレクトロニクス業界向け超高純度窒素製造装置や鉄鋼業界向け大型空気分離装置、また宇宙環境試験装置や液体ヘリウム関連装置なども製造。国内外でプラントメーカーとして高い信頼を得ています。

### 医療関連



医療施設で使われる医療用酸素ガス、在宅医療用の酸素供給機器などを供給。また、高度診断・先端治療分野やバイオ分野にもガステクノロジーで取り組んでいます。

### エレクトロニクス



エレクトロニクス分野に窒素や高品質な材料ガスを安定供給。窒素製造装置や、LEDなどに使われる化合物半導体を製造する装置、排ガス処理装置などの機器・装置も独自に開発し、トータル・ソリューションを提供しています。

### サーモス他事業



高真空断熱技術と金属加工技術を駆使して開発したステンレス製魔法びんや真空保温調理器など、幅広い商品を提供。サーモスは快適で環境にやさしいライフスタイルの実現に貢献しています。

## サーモス事業の紹介

事業の多角化を模索していた日本酸素（現 大陽日酸）は、1978年に世界初の高真空ステンレスボトルを開発。その後、1989年に米国企業からサーモス事業を買収・子会社化し、同ブランドでステンレス製魔法びんの販売を開始しました。

1年間に開発する商品の30%が新商品という高い商品開発力を持っており、著しい成長を遂げています。

マレーシア、中国、フィリピンに製造工場を持ち、強力な生産体制を背景に、高品質な製品をグローバルに販売しています。

今後も、定期的な新商品投入によって市場の活性化を図り、事業のさらなる成長をめざしていきます。



## KAITEKIへの挑戦

### 水素ステーション

大陽日酸は、再生可能エネルギーのひとつとして注目される水素に関するプロジェクトに長年にわたり取り組んできました。

走行時にCO<sub>2</sub>を全く排出しない燃料電池自動車の燃料となる水素ガスを、安全で効率よく供給する水素ステーションの開発・販売を進め、再生可能エネルギー社会の実現に向けて努力していきます。



### 安定同位体 <sup>18</sup>O

酸素同位体である<sup>18</sup>Oは空気中の酸素にわずか0.2%しか存在していません。この<sup>18</sup>Oを98%まで濃縮したWater-<sup>18</sup>Oが、がんの早期発見に効果的なPET診断薬の原料です。

大陽日酸は、世界市場で最大規模となる、年間600kgのWater-<sup>18</sup>Oを国内3つのプラントで生産しています。



## 財務諸表の概要 (国際会計基準 (IFRS) に準拠)

### 連結財政状態計算書

(単位:億円)

勘定科目	当期 [2017年3月31日現在]	前期 [2016年3月31日現在]
(資産)		
現金及び現金同等物	3,635	2,671
営業債権	7,762	7,691
棚卸資産	5,381	5,495
その他の金融資産	2,154	2,145
その他	751	565
流動資産	19,684	18,567
有形固定資産	14,317	14,034
のれん	3,130	2,679
その他の金融資産	2,529	2,518
その他	4,976	4,440
非流動資産	24,952	23,671
資産合計 <b>Point 1</b>	44,635	42,238

(単位:億円)

勘定科目	当期 [2017年3月31日現在]	前期 [2016年3月31日現在]
(負債)		
営業債務	4,379	3,941
社債及び借入金	5,777	7,067
その他	3,343	3,409
流動負債	13,499	14,417
社債及び借入金	11,160	8,729
その他	2,994	3,131
非流動負債	14,154	11,859
負債合計 <b>Point 2</b>	27,654	26,276
(資本)		
資本金	500	500
資本剰余金	3,217	3,175
自己株式	△436	△162
利益剰余金	7,614	6,109
その他の資本の構成要素	19	100
親会社の所有者に帰属する持分合計	10,914	9,722
非支配持分	6,068	6,240
資本合計	16,982	15,962
負債及び資本合計	44,635	42,238

### 連結持分変動計算書

当期 [自2016年4月1日 至2017年3月31日]

(単位:億円)

	親会社の所有者に帰属する持分						非支配持分	資本合計
	資本金	資本剰余金	自己株式	利益剰余金	その他の資本の構成要素	合計		
2016年4月1日残高	500	3,175	△162	6,109	100	9,722	6,240	15,962
当期利益				1,563		1,563	603	2,165
その他の包括利益					95	95	5	100
当期包括利益				1,563	95	1,657	608	2,265
自己株式の変動		30	△273			△243		△243
配当				△234		△234	△280	△515
支配継続子会社に対する持分変動		△20				△20	△495	△516
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替				175	△175	—		—
その他		32		1		33	△4	29
所有者との取引額等合計		42	△273	△58	△175	△465	△779	△1,244
2017年3月31日残高	500	3,217	△436	7,614	19	10,914	6,068	16,982

### 連結損益計算書

(単位:億円)

勘定科目	当期 [自2016年4月1日 至2017年3月31日]	前期 [自2015年4月1日 至2016年3月31日]
(継続事業)		
売上収益	33,761	35,434
売上原価	△23,667	△25,283
売上総利益	10,094	10,150
販売費・一般管理費	△7,147	△7,191
その他の営業収益	107	186
その他の営業費用	△537	△598
持分法による投資利益	170	140
営業利益	2,686	2,687
金融収益	72	89
金融費用	△174	△249
税引前利益	2,583	2,528
法人所得税 <b>Point 3</b>	△444	△741
継続事業からの当期利益	2,139	1,787
(非継続事業)		
非継続事業からの当期利益 (又は当期損失)	26	△739
当期利益	2,165	1,049
当期利益の帰属		
親会社の所有者	1,563	514
非支配持分	603	535

### 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:億円)

勘定科目	当期 [自2016年4月1日 至2017年3月31日]	前期 [自2015年4月1日 至2016年3月31日]
税引前利益	2,583	2,528
減価償却費	1,740	1,827
たな卸資産	△92	376
営業債権債務他	△265	△1,734
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,966	2,996
有形・無形資産取得	△2,058	△2,189
投資・子会社株式取得	△3,413	△1,878
その他	2,580	1,726
投資活動によるキャッシュ・フロー <b>Point 4</b>	△2,891	△2,341
有利子負債	1,343	61
配当金他	△1,329	△470
財務活動によるキャッシュ・フロー	14	△409
現金・現金同等物に係る換算差額	△131	△105
現金・現金同等物の増減額	959	141
現金・現金同等物の期首残高	2,671	2,527
新規連結等に伴う現金・現金同等物の増減	5	3
現金・現金同等物の期末残高	3,635	2,671

#### 資産合計

**Point 1**

資産合計は、主に米国における産業ガス事業の譲受による非流動資産の増加及び社債発行による現金同等物の一時的な増加により増加しています。

#### 法人所得税

**Point 3**

法人所得税は、主にテレフタル酸事業の譲渡に関連した繰延税金資産の計上により減少しています。

#### 負債合計

**Point 2**

負債合計は、主に社債及び借入金の増加により増加しています。

#### 投資活動によるキャッシュ・フロー

**Point 4**

投資活動によるキャッシュ・フローは、米国における産業ガス事業・資産譲受により支出が増加しています。

## 株式の状況

### 株式の状況 (2017年3月31日現在)

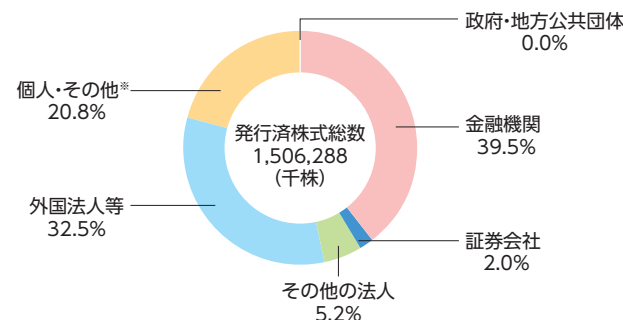
発行可能株式総数	6,000,000,000株
発行済株式総数	1,506,288,107株
株主総数	165,467名

### 大株主 (2017年3月31日現在)

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	90,090	6.3
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	69,593	4.8
明治安田生命保険相互会社	64,389	4.5
日本生命保険相互会社	42,509	3.0
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	25,928	1.8
株式会社三菱東京UFJ銀行	24,149	1.7
東京海上日動火災保険株式会社	23,338	1.6
ステートストリートバンクウェストクライアントトリーティー-505234	21,780	1.5
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	21,411	1.5
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー-505225	21,037	1.5

※上記のほか、当社が自己株式として67,025千株を保有しておりますが、上記出資比率は自己株式を控除して計算しております。

### 所有者別株式分布の状況 (2017年3月31日現在)

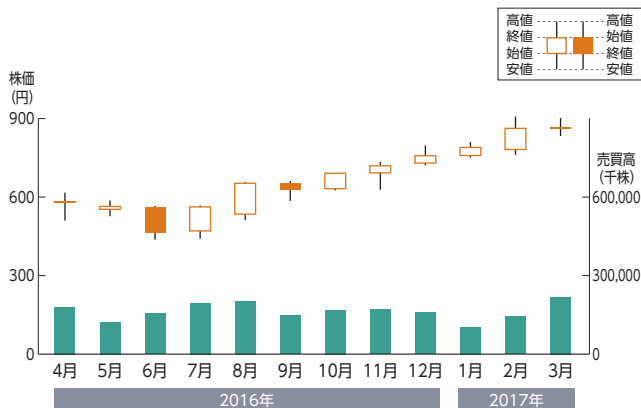


※「個人・その他」には、当社の自己株式としての保有分(4.4%)が含まれております。

### 配当の状況

1株当たり配当金(円)		2015年 3月期	2016年 3月期	2017年 3月期
中間	6	7	8	
期末	7	8	12	
合計	13	15	20	

### 株価・株式売買高の推移(東京証券取引所)



当社IRサイトをご活用ください。  
<http://www.mitsubishichem-hd.co.jp/>



当社ホームページでは、プレスリリースや中期経営計画、決算情報等を掲載しておりますので、ぜひご活用ください。

三菱ケミカルホールディングス

## 会社概要

### 会社概要

商号 株式会社三菱ケミカルホールディングス  
 (英文社名: Mitsubishi Chemical Holdings Corporation)

本店所在地 〒100-8251  
 東京都千代田区丸の内一丁目1番1号  
 (パレスビル)  
 電話 03-6748-7200

資本金 500億円

### 取締役 (2017年6月27日現在)

小林 喜光	取締役会長	橋川 武郎	社外取締役
越智 仁	取締役	伊藤 大義	社外取締役
大平 教義	取締役	渡邊 一弘	社外取締役
小酒井健吉	取締役	國井 秀子	社外取締役
吉村 修七	取締役	橋本 孝之	社外取締役
丸ノ井 邦子	取締役		
梅葉 芳弘	取締役		
浦田 尚男	取締役		

※各委員会の構成は次のとおりです。  
 指名委員会: 橋川武郎(委員長)  
 小林喜光、越智 仁、國井秀子、橋本孝之  
 監査委員会: 梅葉芳弘(委員長)  
 浦田尚男、伊藤大義、渡邊一弘、國井秀子  
 報酬委員会: 伊藤大義(委員長)  
 大平教義、小酒井健吉、橋川武郎、渡邊一弘

### 執行役 (2017年6月27日現在)

越智 仁	代表執行役 執行役社長
大平 教義	代表執行役 執行役副社長 コンプライアンス推進統括執行役 政策・渉外室、広報・IR室(広報)、 法務室、総務・人事室、内部統制推進室 分担
小酒井健吉	代表執行役 執行役副社長 最高財務責任者 経営管理室、広報・IR室(IR) 分担
吉村 修七	執行役専務 経営戦略部門分担
丸ノ井 邦子	執行役専務 先端技術・事業開発室、情報システム室 分担

**IR NAVI アイアール ナビ** とは、本冊子を株主の皆様とのコミュニケーションツールとして、当社グループに関する情報(IR情報)をよりわかりやすく株主の皆様へナビゲート(道案内)していきたいという意味を込めております。



## 株主メモ

- 事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 6月
- 株主確定基準日
  - (1) 定時株主総会 3月31日
  - (2) 期末配当金 3月31日
  - (3) 中間配当金 9月30日
 その他必要あるときは、あらかじめ公告して基準日を定めます。
- 公告の方法
 

電子公告の方法により行います。但し、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。

◎ 公告掲載URL  
(<http://www.mitsubishichem-hd.co.jp/ir/index.html>)
- 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 〒100-8212  
東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
三菱UFJ信託銀行株式会社  
証券代行部
- 郵便物送付先及びお問い合わせ先 〒137-8081  
新東京郵便局私書箱第29号  
三菱UFJ信託銀行株式会社  
証券代行部  
**0120-232-711 (通話料無料)**

※2017年8月14日以降、株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関の事務拠点の所在地が以下のとおり移転します。  
東京都府中市日鋼町1番地1 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
(2017年8月13日まで：東京都江東区東砂七丁目10番11号)

### 単元未満株式(1株~99株)をお持ちの株主様へ

#### 単元未満株式(1株~99株)とは

当社の最低売買単位である1単元(100株)に満たない株式のことをいいます。単元未満株式(1株~99株)については、証券市場で売買することはできません。

#### 単元株式

#### 単元未満株式



株主総会で議決権を行使できます。  
証券市場で売買できます。



株主総会で議決権を行使できません。  
証券市場で売買できません。

単元未満株式をお持ちの株主様は、市場価格で、単元株式(100株)にするために必要な株数を当社からご購入(買増制度)または単元未満株式を当社に対しご売却(買取制度)いただくことができます。

#### (例)40株をお持ちの株主様の場合

買増制度	買取制度
60株を、当社から市場価格でご購入いただけます。	当社が、40株を市場価格で買い取らせていただきます。

#### ご利用方法

証券会社の口座をお持ちの株式については、お取引先の証券会社でお手続きください。また、特別口座をお持ちの株式については、当社の特別口座の口座管理機関までお問い合わせください。

#### 特別口座の口座管理機関及び連絡先



口座管理機関  
東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
三菱UFJ信託銀行株式会社



連絡先  
〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
0120-232-711 (通話料無料)

※特別口座に株式をお持ちの株主様が、株式を売買される場合は、あらかじめ特別口座から証券会社の口座への振り替えが必要となりますので、お早めにお手続きください。